

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	海の見えるグループホームしおさい		
所在地	山口市秋穂西3317番地の1		
電話番号	083-984-5656	事業所番号	3590300038
法人名	株式会社 VAN		

訪問調査日	平成 20 年 1 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 4 月 23 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	15 人	常勤	8 人 非常勤 1 人 (常勤換算 12.4 人)

### (2) 建物概要

建物構造	木造		造り	
	1 階建ての	1	~	1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	45,000 円	敷金	無	円
保証金	有	180,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円	
	夕食	300 円	おやつ	66 円	
その他の費用	月額	15,000 円			
	内訳	光熱水費 15,000円			

### (4) 利用者の概要 (1月18日現在)

利用者数	17 名		男性	3 名	女性	14 名
	要介護 1	9	要介護 4	0		
	要介護 2	6	要介護 5	0		
	要介護 3	2	要支援 2	0		
年齢	平均	78.8 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 吉武医院 歯科 佐川歯科医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

社会福祉に貢献したいとの理事長の思いから、穏やかな秋穂湾の入江の眺望の良い海岸に面した場所にグループホームを建設し、熱意と経験ある管理者を迎え、質の良いサービスの提供を目指し努力されています。3食とも利用者や職員と一緒に調理し共に食事をしながら楽しみを共有し、運営者も食事バランスに気をつけながら献立を作るなど、利用者の状態に注意を注いでおられます。利用者は率先して、自分のできる役割を果たし(広い庭の草取り、3食の調理、後片付け、モップかけなど)支えあう関係を築いています。

### (特徴的な取組等)

管理者のピアノ演奏により、童謡や、懐かしい歌を手拍子で歌い、和やかな雰囲気でも過ごせるよう工夫されています。医療機関受診の送迎、付き添い、個別の要望にも応える外出支援など、多機能性を生かした支援の取り組みをされています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

初めての評価です。

### (今回の自己評価の取組状況)

管理者、主任で自己評価を行ない、それを基に各ユニットで職員から意見を聞き、最後に管理者、主任で協議して完成されました。各項目ごと細かく分析し、これから取り組みたいことを具体的に記述しておられます。

### (運営推進会議の取組状況)

メンバーは家族、地区自治会長、民生委員、地域包括支援センター、交番職員の参加を得、2ヶ月に1回開催し、意見を聞いておられます。「外部の人が入りにくい」の意見から「しおさい祭り」の開催を試みるなど、サービスに活かしておられます。

### (家族との連携状況)

定期的なホーム便りのほか、毎月近況報告、金銭出納簿の写しなどを送付し、報告をすると共に、面会時には意見を聞くよう努めておられます。カンファレンスやホーム行事にも家族の参加があります。

### (地域との連携状況)

自治会に加入し、地域の溝掃除に、職員と利用者2~3人が出かけ、散歩時に挨拶をするなど交流しています。地域行事への参加は無く、ホームのしおさい祭りへ住民の参加を呼びかけておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>ホームの運営方針として「利用者の有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう支援する」とうたっているが、地域密着型サービスとしての理念と明文化がされていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の明文化 ・全職員による見直し</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、更に守るべき9項目の注意点を箇条書きにして掲示し、週1回の朝礼で職員で唱和し、共有に努めている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、溝掃除などに利用者2～3人と一緒に参加している。自治会行事への参加はなく、ホームの「しおさい祭り」に住民の参加を呼びかけている。</p>	<p>・地域行事の把握と参加</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者、管理者、各ユニット主任は評価の意義を理解し、ユニット毎に主任・職員で検討し、その後管理者と主任で完成した。全職員の理解には至っていない。</p>	<p>・全職員への徹底</p>
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、メンバーは利用者、家族、地区の自治会長、民生委員、警察(交番職員)、地域包括支援センター、ホーム職員で意見交換をしている。「入りにくい」との意見を受け、しおさい祭りの開催を試みた。</p>	<p>・評価結果を活かした協議</p>
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>書類の提出や会議への参加の連携である。</p>	<p>・ホーム行事などへの参加案内 ・積極的な連携の検討</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ホーム便り、請求書、金銭出納簿の写し、利用者の近況報告をしている。面会時には利用者の生活状況や金銭管理の報告をしたりしているが、職員の紹介、異動等については報告していない。	・職員紹介の工夫
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	電話や面会時、運営推進会議で意見要望を聞いている。玄関に苦情箱を設置しており、居室入り口の写真掲示についての苦情があり、改善に繋げている。重要事項説明書に事業所の相談窓口を明記しているが、外部機関の明示・第三者委員の選任はなく、苦情処理手続きも、明確に定めていない。	・全ての外部機関の明示 ・第三者委員の選任の検討 ・苦情処理手続きの明確化
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8名、非常勤7名で受診の送迎、付き添いなど要望に対応しており、状況の変化、緊急時、夜間も含め管理者、2ユニットの職員間で勤務調整している。	・柔軟な対応にむけた人員確保
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動は最小限に抑えているが離職者はある。ダメージを防ぐよう、管理者、他の職員でカバーし、顔なじみの関係が維持できるように地元の職員採用に配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	開設以後管理者と職員1名が外部研修に参加した。初心者が多いため、虐待、認知症、防災、プライバシーなどについて、管理者、ケアマネジャーが講師となり研修している。段階的な研修計画は立てていない。	・個人ごとの段階的研修計画の作成と実施 ・内部研修の充実
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会には加入していない。山口市介護サービス提供事業者連絡協議会に加入し、2ヶ月に1回の会議に参加しているが、相互交流などはしていない。	・同業者との交流及び研修への参加

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>利用者は老人ホームからの移行者であり、馴染んでいる。新たな利用者については事前に管理者が訪問して、本人、家族と面談し、見学(お茶を飲みに来て下さい)を勧め、納得した上で利用するよう取り組んでいる。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者は職員と一緒に食事の準備や調理、皿洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、草取り、掃除、モップかけなど行ない、利用者から味付け、洗濯物の干し方、庭の手入れなどを教えられ、互いに支え合う関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日常の会話や行動から、本人に直接希望を聞いたり、意向の把握に努め、家族からも要望を聞き、困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアマネジャーが中心となり、モニタリングを行ない、課題やケアについて、本人、家族、関係者(主任、看護師、担当)で話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>毎月の点検と3ヶ月ごとの見直しを行ない、急な変化があるときは、本人、家族、関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>本人、家族の要望を聞き、受診の送迎、付き添い、買い物、墓参りなどに対応しているが、利用者のほとんどが受診しているため、これらの支援に多くの時間が割かれている。(18人中17人受診)</p>	<p>・受診以外の要望に対応できる体制の検討</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望により、医療機関受診については、事業所が責任もって送迎・付き添いを行ない、適切な支援を行なっている。山口市内の医療機関受診の場合、持ち時間を含めて半日に及ぶこともある。	・医療機関受診支援体制の検討
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	いずれは終末期まで支援したい考えがあり、契約時に家族に説明しているが、今のところ該当者はない。	・終末期支援の指針の作成と支援体制の検討
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人の尊重、プライバシーの保護については、管理者が指導している。記録は鍵のかかるロッカーに保管している。	・認知症理解のための研修 ・接遇研修の実施
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、起床、睡眠、食事時間、入浴など本人のペースに合わせて支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みを聞き、献立は社長が立て、栄養バランスに気をつけている。3食ともホームで調理し、利用者も一緒に調理、味付け、配膳、片付けも行ない、職員も同じものを一緒に食べている。糖尿病の利用者もあり、医師の指示を得て気をつけている。	・定期的な栄養士の指導
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、ユニット交互に沸かし、隔日の入浴で14時～18時頃までであるが、希望や必要に応じて毎日入浴できる支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や趣味などを把握し、習字や絵画、囲碁、将棋、特にピアノの生演奏で童謡、懐メロ、を歌うなどの楽しみごとや、料理の準備、配膳、後片付け、掃除、モップかけ、草取り、洗濯物干し、洗濯物たたみなど活躍できる場面づくりを支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの要望に沿うよう努めており、日常の買い物、散歩に出かけたり、宇部市常盤公園、霜降山などへも出かけ楽しんでいる。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	道路に面している為、玄関は施錠している。海岸、庭に面した南側はいつでも自由に出入りできる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと・事故報告書をきちんと記載し、主任・管理者のコメントも記入され職員全員の押印もあるが、改善策が検討されていない。薬についての事故報告が多い。	・全職員での交えた改善策の検討と再発防止 ・個々の状態に応じた事故防止対策
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルはあるが、定期的な研修、訓練が行なわれていない。	・定期的な研修の実施 ・消防署の救急救命訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署からの防災・避難訓練を実施しており、避難場所も確認しているが、地域の協力は得られていない。	・地域の協力体制 ・夜間想定訓練の実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の説明書は、個人記録と更に一括ファイルに綴じられ、いつでも見られるようにしているが、目的・副作用などについて、理解ができていない。服薬はその都度口元までもって行き、飲みこぼしのないよう支援している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	・薬についての勉強会の実施
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりに応じた支援をしている。歯ブラシ、義歯の保管についても適切に支援している。訪問歯科診療もある。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分摂取量を記録している。社長が献立を作成し、栄養バランスにも配慮している。	・定期的な栄養士による助言
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを整備し実行している。うがい薬、洗浄・除菌剤、ペーパータオルの使用、冷蔵庫、台所用品の清潔など感染症予防に取り組んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	食堂、居間は日当たりの良い南側の海辺に面し、水平線からの朝日を見ることができ、初日の出も一緒に見ることができた。台所が近く、調理の音、匂いなど生活感があり、食後はソファに座り、テレビを観たり、片付けたり、洗濯物をたたんだり、思い思いに過ごされていた。壁には利用者の書かれた書や絵、写真が飾られていた。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ベットを持ち込んだり、畳を敷いて和室としている人など、利用者、家族の要望に沿った支援がされていた。タンスをはじめ、個人の家具、備品が持ち込まれ、居心地良く過ごす工夫がされていた。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	海の見えるグループホームしおさい
所在地	山口県山口市秋穂西3317-1
電話番号	083-984-5656
開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 12 月 1 日現在 )

ユニットの名称	東棟			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	2	要介護 4	0
	要介護 2	6	要介護 5	0
	要介護 3	1	要支援 2	0
年齢構成	平均 77.3 歳	最低 67 歳	最高 85 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者と、各ユニットで各主任が、先ず計3部に記入を行う。 各ユニットの記入に関し該当ユニットの主任と職員で協議を行う。 各ユニットからの自己評価と管理者の自己評価を元に管理者と各主任 で協議を 行い、完成提出。
評価確定日	平成 19 年 12 月 10 日

## 【サービスの特徴】

### <理念>

人と自然に囲まれたこの地で、介護を必要とする認知症高齢者が、共に寄り添い、感性豊かな職員の24時間体制のお手伝いにより、穏やかで和やかな、残存能力に見合った暮らしの中で、不安なく楽しく充実した時を過ごして頂き、御家族の負担を軽減します。

### <注意点>

- ・あいさつはいつも笑顔で自分から。
- ・職員同士、声掛け合って助け合い。
- ・油断大敵。短気も、大敵。
- ・苦情、注意、注文は職員と施設の栄養素。
- ・キッチンに居ても、目耳は、入居者へ。
- ・就業時間、過ぎたらすぐに帰りましょう。
- ・いつも、18名の位置確認。
- ・あせらない、あせらない。
- ・寛容の気持ちを大切に。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>&lt;理念&gt; は「表紙」に示したように存在し、山口市役所へ事業申請する際も、&lt;理念&gt; として提出しています。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>&lt;理念&gt; は具体的ではないため、その具体化に向けた「注意点」を設定しています。</p>	<p>個別、認知症に踏み込んだ「注意点」を、順次加えていきたい。が、「注意点」の項目が多くなることは避けたい。</p>
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>	<p>上記「注意点」と共に事務所の壁に掲示しており、週一回の朝礼で、出勤者全員で読み合わせをしている。</p>	
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>	<p>&lt;理念&gt; を「目標」として掲げ、「どうすれば実現可能であるか。」を各職員に問いかけ「方法は各人各様であって良い。」としてある。</p>	<p>もっと、突っ込んだ論議をしたい。</p>
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>&lt;理念&gt; は現在のところ、事務所の内側にあり、一般の方の目には触れない場所にある。</p>	<p>外部から来られた方が&lt;理念&gt; を読まれ、納得されるようにしたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	<p>施設の玄関先を通過される方々にも、こちらから笑顔であいさつをし、こちらから敷居を高くしてしまわないように指導している。が、徹底はできていない。</p>	
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会長・民生委員とは個別にお話をしているに止まっている。</p>	<p>左記委員の方々から「…に出て下さい。」と声を掛けられるように。</p>
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に先立ち、理事長・社長・管理者・主任で左記内容を幾度か話し合い、去る9/23には「しおさい・祭り」を実施。が、建物内へ入られた方が非常に少なかった。</p>	<p>門は入られているので、建物の外にもっと掲示物を立て、建物内で入居者の暮らしぶりを見て頂きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	他施設で外部評価を受けた職員が数名在籍しており、意義の理解は全職員、運営者にも行き届いている。今回の初めての評価をしっかりと受け止める態勢にはなっている。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	入居者の御家族、地区役員、地域包括職員からの御意見をまとめると「入りにくい」とある。普段のあいさつや「祭り」の活用が不完全かと思う。	「祭り」の定例化を地域へ浸透させる。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要書類の行き来のみ。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者がおられ、その後見人さんには時々お話を聞きます。が、「学ぶ」という状態ではありません。	必要となる前に学習したい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	行政からの資料があるのみです。虐待につながるような認識・対応の誤りには注意を払い指導している。	認知症の方の現状認識の状態をしっかりと教えたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書・重要事項説明書を御説明した後、持ち帰って頂き、不安や疑問点があれば、再度ご説明した後に、署名・捺印していただくようにしている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	レクリエーションの時間には、各利用者にそれとなく希望・苦情を聞くようにしている。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の請求書の送付時には、併せて近況と預かり金の出納帳のコピーと「しおさい便り」を添付している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	応じる体制にはなっているが、現在のところ要求はない。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	東西の玄関に苦情箱を設置している。とともに面会に来られた際には、色々のご意見を伺うようにしている。担当は施設長。第三者委員や外部機関は設けていない。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週一回の朝礼時に、「どんな些細なことでも」意見を出してもらっているようにしている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	土日曜日に御家族の面会が多いので、可能な限り管理者・主任を土日勤務に当てるようにしている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員同士の世間話に注意を払い、話題が入居者や介護から離反しないよう、バランスを取るよう主任級には注意を与えている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の場をもうけ、職員の質の向上に努めているが、なだまだ足りない		介護保険一般の講習会を実施
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	各年代のスタッフを配置している		年代に偏りがないように対応している
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会等への積極的な参加		介護研修会等、職員の参加を積極的に行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	初期のアセスメントを通しての直接の聞き取り	管理者、ケアマネ、担当者はアセスメントを通して利用者様の初期状態の把握に努めている。特に担当者は密な関係を作れるようにしていきたい
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前、入居後 家族からの要望等を聞いて対応している	運営推進会議等、家族の積極的な参加を促したい
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の希望は可能な限り受け入れて対応している	初期のケアプランにも盛り込めるよう努力をしている
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	2週間程度の様子をしながら計画の実行をしている	看護師・担当者・主任・ケアマネ それぞれの視点からの討議の上、プランの作成・実行を行っている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個別の対話・レクを通じてそのように対応している	利用者様は人生の先輩と捉え、職員が学ぶべきことも多くあるものとして対応し、関係を築きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		薬だけ置いて帰られる家族もあるが少しの時間でも顔を見て帰っていただけるようにしている
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		支障のない限り故郷ドライブ等実施していきたい
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		仲の悪い関係もあるので衝突が起きないように職員が仲介に入ったり、孤立しそうな人の側についたり、言う関わりを持ちたい
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		介護に関する相談事には拒否なく対応している
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		心掛けてはいるが共同生活の部分で実行できない部分もある。極力対応したいとは思っている
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		各担当者の責任のもと情報収集することを義務化している。実行できている
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		把握したもので特に情報の共有を必要とするものは連絡帳に記入し対応している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	そのように対応している	現在、担当者・主任・ケアマネ・看護師の話し合いで介護計画を作成している
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	特に期間は定めてないがおおむね2ヶ月に1回程度はモニタリングを実施し、対応している	わずかな変化でも計画に反映できるように即座にモニタリングを実施し、見直しを行っている
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録はもちろんのこと、連絡帳も記載して情報の共有に努めている	ケアプランの実施の際は個別記録に番号を記入の上、記録するように徹底している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	推進会議にも交番の参加を求める等の努力はしている 有料の散髪ボランティアにも来て頂いている	ボランティアの活用を積極的に行いたいがなかなか実行できていない 11月に演奏の慰問を実施できた
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学等は申し出があれば積極的に受けている	地域への介護教室の開催等行いたいが出来ていない 地域への貢献を実施していきたい
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホームの性質上、他のサービスの利用は困難であるが歯科訪問診療は利用している	歯科訪問診療は利用している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		権利擁護等、で相談したりすることも出てくるかもしれない その時は積極的に相談したい
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		受診時には担当職員が同行し、現状の報告等を行い関係を築けるように指示している
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		最近の様子等の報告を密に行い認知症の進行具合の報告も実施している
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		2名の看護師がおり、薬のことなど気軽に相談している
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		電話での関係しか作られていないので面会して連絡調整できればと思っている
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		現状、そのような利用者様がないので実施できていない 今後は必要と考える。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		終末期ケアに対するチームとしての支援が必要であるとともに終末期に対する職員の勉強も必要であり、行っていきたい
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		入居時には十分な情報収集を行っているが入院時、退去時には行っていない。今後は必要と考える

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	そのように対応している	個人情報の持ち出し禁止等の徹底は行っている
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者様の思いを大切にまた、実行できるように支援している	今後も利用者様主体の個別ケアが必要と考えておりそれを職員に周知する必要がある
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	そのように対応している。	それぞれに出来ることに限りがありその見極めが出来るように職員を訓練することも大切であるとする
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	ペースは大切にしているが希望が叶えられない場合がある。	希望にそって支援したいがその日の職員の能力等でできない場合がある。改善の余地あり改善の方法で動きたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	基本的には 有料ボランティアを利用している。個別に希望がある場合は外の店に出掛ける利用者様もいる	その人らしい身だしなみ、好みは優先しそのように対応している。
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	そのように対応している。	かたづけは出来ているが準備を手伝う行為が少ないように思う。積極的に支援していきたい
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	身体状況に影響のない限り対応している	今後もそのように対応したい
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	金銭的な負担、利用者様の自立支援の観点からもそのように対応している	11月に1人昼間のパットの使用を中止した。今後も減らす方向で支援を行いたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		業務上、隔日の入浴を実施している  入浴日でなくても臨機応変に対応したり夜間入浴を好む人にはそのように対応している
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		そのように対応している  その人の生活習慣が極端に集団生活の障害にならなければ そのように対応している
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		そのように対応しているが 職員の能力により対応できていない場面もある。(例えば将棋の好きな方の対応等)  アセスメントにおいて生活歴の把握には重点を置いており、できている
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		金銭管理可能な方には少額でも自己管理してもらっている  自己管理可能かどうかの個別の判断をもっと正確にしたほうが良いと思う。もしかして出来るのに出来ないと思ひこみさせていない方があるかもしれない
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		集団での行動になるが、そのように対応している  夏・冬に関しては身体状況と相談しながら行っている
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		そのように対応したいが車の関係等ありなかなか出来ていない  小型の車を受診で使うとワゴン車しか残らず運転出来る人が限られるのでなかなか対応できていない
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		電話しても不穩に発展しないような方にはそのように対応している  会話が可能な方、文字が書ける方を見極めてそのように対応しているし、今後も続けたい
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		面会時間をおおむね9:00～21:00としており気軽に訪問して頂けている  今後も気軽に来て頂けるような援助を行いたい
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		布団の貸し出し等自由に行っておりそのように対応している  そのように対応している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	開設1年目でなかなか思うような行事が出来なかったが夏祭りは実行できた	夏祭りを実施し、家族の参加を呼びかけた。今後もそのような行事を多く行っていきたい
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束の実績はなく、そのように対応している	身体拘束マニュアルを策定し、遵守するように努めている
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	徘徊する利用者もあり道路が近いこともあって鍵は掛けている	鍵を掛けないことが理想ではあるが採石関係のダンプカーが通る道路に隣接している物理的な条件があり未施錠対応は困難である
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全に配慮している	外出時の配慮のポイント等職員の研修が必要である
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者様の身体状況・能力に応じて対応している	連絡帳を通して情報を共有し、実施している
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急対応のマニュアルはあるが勉強会は不足している	事故報告書・ヒヤリハット等を回覧して事故防止には努めているが研修会を催してスキルアップを図りたい
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の訓練を定期的には実施はできていない	消防署の訓練等、依頼して実施していきたい
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	細かいことから報告書にして挙げてている	薬に関することが多いので解決策

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域の協力が得られるように運営推進会議等で協力を得たい
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		緊急性のあるものには家族に電話にて相談し、時間が許すものはケアプランに盛り込んで了承を得ている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		速やかに対応している その日のリーダーの判断で急な受診等対応している
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		用途・用法・副作用についての情報はファイルしてあるが全ての職員が把握しているとは思えない。把握できるような工夫が必要である
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		取り組んではいるが浣腸に頼ってしまうところがある。自然排便を望む姿勢は続けていきたい
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		特に、歯科診療で口腔ケアの指示がある人はケアプランに盛り込んで職員が介助する等の対応を行っている
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		糖尿病の人の食事管理等、まめに対応している
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染症に対するわかりやすいマニュアルの整備が必要である。今あるのは雑然としており早急に改善する必要がある
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食器を洗うスポンジ・食器・歯ブラシ等は乾燥機にて高温消毒している。食材も賞味期限を見ながら順番に使用している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関もスロープがついており建物自体の工夫はあるが近隣との交流が薄い	近隣の人等が何気なく立ち寄るといった感じはない。近隣との抵抗をなくすることが大切と考えておりもっと自由に立ち寄れるように工夫する必要がある
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	日の当たり具合等考慮しながら対応している	食堂では季節感を取り入れた工夫をしている七夕・クリスマス等
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	特に工夫はないが生活の場と捉え自由に生活していただいている	テーブルで話しをする方、ソファで語る方 居室で休まれる方、自由に過ごしていただけるように支援しています
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	長年使われた馴染みの品等は積極的に持ち込んでもらっている	入居時には家族に対してもそのように対応している
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	こまめに対応している	寒くなり日中は解放する窓も夕方には閉めるように徹底している。夜間の居室温度も23～24の範囲で管理しており、入居者様の好みに合わせている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	あえて言えば浴室が普通タイプのユニットバスになっており改善の余地がある	廊下の手摺り等、それぞれの力に応じた対応が出来るように建物内部も工夫されている。浴槽の回転ボード等取り入れて安全な入浴を計りたい
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自立して暮らせるように支援している	各利用者様の自立の力を妨げないように、出来る人には手を貸さない生活を実施している
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	活動出来るように支援している	畑での農作業・草取り等実施している

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	海の見えるグループホームしおさい
所在地	山口県山口市秋穂西3317-1
電話番号	083-984-5656
開設年月日	平成 19 年 6 月 1 日

## 【実施ユニットの概要】 ( 12 月 1 日現在 )

ユニットの名称	西棟			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護 1	7	要介護 4	0
	要介護 2	1	要介護 5	0
	要介護 3	1	要支援 2	0
年齢構成	平均 80.4 歳	最低 67 歳	最高 92 歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者と、各ユニットで各主任が、先ず計3部に記入を行う。 各ユニットの記入に関し該当ユニットの主任と職員で協議を行う。 各ユニットからの自己評価と管理者の自己評価を元に管理者と各主任 で協議を 行い、完成提出。
評価確定日	平成 19 年 12 月 10 日

## 【サービスの特徴】

### <理念>

人と自然に囲まれたこの地で、介護を必要とする認知症高齢者が、共に寄り添い、感性豊かな職員の24時間体制のお手伝いにより、穏やかで和やかな、残存能力に見合った暮らしの中で、不安なく楽しく充実した時を過ごして頂き、御家族の負担を軽減します。

### <注意点>

- ・あいさつはいつも笑顔で自分から。
- ・職員同士、声掛け合って助け合い。
- ・油断大敵。短気も、大敵。
- ・苦情、注意、注文は職員と施設の栄養素。
- ・キッチンに居ても、目耳は、入居者へ。
- ・就業時間、過ぎたらすぐに帰りましょう。
- ・いつも、18名の位置確認。
- ・あせらない、あせらない。
- ・寛容の気持ちを大切に。

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>&lt;理念&gt;は「表紙」に示したように存在し、山口市役所へ事業申請する際も、&lt;理念&gt;として提出しています。</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>個別、認知症に踏み込んだ「注意点」を、順次加えていきたい。が、「注意点」の項目が多くなることは避けたい。</p>
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>上記「注意点」と共に事務所の壁に掲示しており、週一回の朝礼で、出勤者全員で読み合わせをしている。文章により職員にわかりやすく定位置に掲げている。</p>
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>&lt;理念&gt;を「目標」として掲げ、「どうすれば実現可能であるか。」を各職員に問いかけ「方法は各人各様であって良い。」としてある。</p>
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		<p>&lt;理念&gt;は現在のところ、事務所の内側にあり、一般の方の目には触れない場所にある。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>施設の玄関先を通過される方々にも、こちらから笑顔であいさつをし、こちらから敷居を高くしてしまわないように指導している。が、徹底はできていない。</p>
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>自治会長・民生委員とは個別にお話をしているに止まっている。</p>
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>運営推進会議に先立ち、理事長・社長・管理者・主任で左記内容を幾度か話し合い、去る9/23には「しおさい・祭り」を実施。が、建物内へ入られた方が非常に少なかった。</p>
			<p>門は入られているので、建物の外にもっと掲示物を立て、建物内で入居者の暮らしぶりを見て頂きたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	他施設で外部評価を受けた職員が数名在籍しており、意義の理解は全職員、運営者にも行き届いている。今回の初めての評価をしっかりと受け止める態勢にはなっている。	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	入居者の御家族、地区役員、地域包括職員からの御意見をまとめると「入りにくい」とある。普段のあいさつや「祭り」の活用が不完全かと思う。	「祭り」の定例化を地域へ浸透させる。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	必要書類の行き来のみ。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者がおられ、その後見人さんには時々お話を聞きます。が、「学ぶ」という状態ではありません。	必要となる前に学習したい。
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	行政からの資料があるのみです。虐待につながるような認識・対応の誤りには注意を払い指導している。	認知症の方の現状認識の状態をしっかりと教えたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書・重要事項説明書を御説明した後、持ち帰って頂き、不安や疑問点があれば、再度ご説明した後に、署名・捺印していただくようにしている。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	レクリエーションの時間には、各利用者にそれとなく希望・苦情を聞くようにしている。玄関口には苦情箱を設置している。	
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月の請求書の送付時には、併せて近況と預かり金の出納帳のコピーと「しおさい便り」を添付している。預かり金については、残高が少なくなった時、早めに連絡している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	上記の定期便以外についても、開示要求には応じる体制にはなっているが、現在のところ要求はない。		
18 (8) <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	東西の玄関に苦情箱を設置している。とともに面会に来られた際には、色々のご意見を伺うようにしている。担当は施設長。第三者委員や外部機関は設けていない。		
19 <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週一回の朝礼時に、「どんな些細なことでも」意見を出してもらっているようにしている。		
20 (9) <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	土日曜日に御家族の面会が多いので、可能な限り管理者・主任を土日勤務に当てるようにしている。		
21 (10) <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員同士の世間話に注意を払い、話題が入居者や介護から離反しないよう、バランスを取るよう主任級には注意を与えている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の場をもうけ、職員の質の向上に努めているが、なだまだ足りない		介護保険一般の講習会を実施
23 <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	各年代のスタッフを配置している		年代に偏りがないように対応している
24 (12) <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修会等への積極的な参加		介護研修会等、職員の参加を積極的に行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	初期のアセスメントを通しての直接の聞き取り	管理者、ケアマネ、担当者はアセスメントを通して利用者様の初期状態の把握に努めている。特に担当者は密な関係を作れるようにしていきたい
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居前、入居後 家族からの要望等を聞いて対応している	運営推進会議等、家族の積極的な参加を促したい
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族の希望は可能な限り受け入れて対応している	初期のケアプランにも盛り込めるよう努力をしている
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の性格や趣味等を把握し家族の助言を含め環境作りに努めている。2週間程度の様子を見ながら計画の実行をしている。	看護師・担当者・主任・ケアマネ それぞれの視点からの討議の上、プランの作成・実行を行っている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に出来る事は共に行い、過ごせるようにしている。個別の対話・レクを通じてそのように対応している	利用者様は人生の先輩と捉え、職員が学ぶべきことも多くあるものとして対応し、関係を築きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		薬だけ置いて帰られる家族もあるが少しの時間でも顔を見て帰っていただけるようにしている
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		支障のない限り故郷ドライブ等実施していきたい
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		仲の悪い関係もあるので衝突が起きないように職員が仲介に入ったり、孤立しそうな人の側についたり、言う関わりを持ちたい
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		介護に関する相談事には拒否なく対応している
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		心掛けてはいるが共同生活の部分で実行できない部分もある。極力対応したいとは思っている
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		各担当者の責任のもと情報収集することを義務化している。実行できている
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		把握したもので特に情報の共有を必要とするものは連絡帳に記入し対応している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	そのように対応している	現在、担当者・主任・ケアマネ・看護師の話し合いで介護計画を作成している
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	特に期間は定めてないがおおむね2ヶ月に1回程度はモニタリングを実施し、対応している	わずかな変化でも計画に反映できるように即座にモニタリングを実施し、見直しを行っている
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録はもちろんのこと、連絡帳も記載して情報の共有に努めている	ケアプランの実施の際は個別記録に番号を記入の上、記録するように徹底している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	推進会議にも交番の参加を求める等の努力はしている 有料の散髪ボランティアにも来て頂いている	ボランティアの活用を積極的に行いたいがなかなか実行できていない 11月に演奏の慰問を実施できた
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学等は申し出があれば積極的に受けている	地域への介護教室の開催等行いたいが出来ていない 地域への貢献を実施していきたい
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	グループホームの性質上、他のサービスの利用は困難であるが歯科訪問診療は利用している	歯科訪問診療は利用している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		権利擁護等、で相談したりすることも出てくるかもしれない その時は積極的に相談したい
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		受診時には担当職員が同行し、現状の報告等を行い関係を築けるように指示している
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		最近の様子等の報告を密に行い認知症の進行具合の報告も実施している
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		2名の看護師がおり、薬のことなど気軽に相談している
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		電話での関係しか作られていないので面会して連絡調整できればと思っている
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		現状、そのような利用者様がないので実施できていない 今後は必要と考える。
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		看護師が毎日いるわけではないので「できること・できないこと」が限られてくるがチームとしての取組は実行できていない 終末期ケアに対するチームとしての支援が必要であるとともに終末期に対する職員の勉強も必要であり、行っていきたい
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		入居時には十分な情報収集を行っているが入院時、退去時には行っていない。今後は必要と考える

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>一日の記録や過去の生活歴、病気等をファイルにまとめてある。そのように対応している</p>	<p>個人情報の持ち出し禁止等の徹底は行っている</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>訴えの際にも本人が理解できるようわかりやすく言葉がけするようにしている。利用者様の思いを大切に、また、実行できるように支援している</p>	<p>今後も利用者様主体の個別ケアが必要と考えておりそれを職員に周知する必要がある</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>一緒に行くことを基本とし、できる事を引き出すようにし、買い物等は職員が主に行っている為、本人の選択肢は出来ない。</p>	<p>それぞれに出来ることに限りがありその見極めが出来るように職員を訓練することも大切であるとする</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ペースは大切にしているが希望が叶えられない場合がある。</p>	<p>希望にそって支援したいがその日の職員の能力等でできない場合がある。改善の余地あり改善の方法で動きたい</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>出張美容室の利用や家族付添いによる外出での馴染みの美容室の利用。基本的には 有料ボランティアを利用している。個別に希望がある場合は外の店に出掛ける利用者様もいる</p>	<p>その人らしい身だしなみ、好みは優先しそのように対応している。</p>
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事作りにも参加して頂き、掃除等の一緒に行っている。</p>	<p>かたづけは出来ているが準備を手伝う行為が少ないように思う。積極的に支援していきたい</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>本人の健康状態を把握し、状況に応じて飲食して頂いている。</p>	<p>今後もそのように対応したい</p>
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>本人が生活しやすいようポータブルトイレの使用や声かけにより排泄できるようにしている。金銭的な負担、利用者様の自立支援の観点からもそのように対応している</p>	<p>11月に1人昼間のパットの使用を中止した。今後も減らす方向で支援を行いたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴有無の希望を聞き、入浴時間も本人の意に沿うようにしている。入浴前にはバイタルサイン測定を実施し結果によっては入浴を中止する事もある。		入浴日でなくても臨機応変に対応したり夜間入浴を好む人にはそのように対応している
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	本人の意志を尊重。		その人の生活習慣が極端に集団生活の障害にならなければ そのように対応している
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	そのように対応しているが 職員の能力により対応できていない場面もある。(例えば将棋の好きな方の対応等)		アセスメントにおいて生活歴の把握には重点を置いており、できている
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	数名の利用者がサイフを本人で管理している。金銭管理可能な方には少額でも自己管理してもらっている		自己管理可能かどうかの個別の判断をもっと正確にしたほうが良いと思う。もしかして出来るのに出来ないと思ひこみさせていない方があるかもしれない
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩に出るよう努めているが、車での外出が不十分である。集団での行動になるが、そのように対応している		夏・冬に関しては身体状況と相談しながら行っている
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	そのように対応したいが車の関係等ありなかなか出来ていない。定期的に家族と外出されてる利用者もいる。個別での外出は出来ていない。		小型の車を受診で使うとワゴン車しか残らず運転出来る人が限られるのでなかなか対応できていない
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	内容によっては、まず職員が連絡をとり本人と話をしていただいている。電話しても不穏に発展しないような方にはそのように対応している		会話が可能な方、文字が書ける方を見極めてそのように対応しているし、今後も続けたい
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間をおおむね9:00~21:00としており気軽に訪問して頂けている。訪問され居室で過ごされる事が多いが、希望があれば食事と一緒に摂って頂いている。		今後も気軽に来て頂けるような援助を行いたい
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	布団の貸し出し等自由に行っておりそのように対応している		そのように対応している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	開設1年目でなかなか思うような行事が出来なかったが夏祭りは実行できた	夏祭りを実施し、家族の参加を呼びかけた。今後もそのような行事を多く行っていきたい
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束の実績はなく、そのように対応している	身体拘束マニュアルを策定し、遵守するように努めている
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	帰宅願望や入居して浅い利用者もあり、徘徊する利用者もあり道路に近いこともあって鍵は掛けている。	鍵を掛けないことが理想ではあるが採石関係のダンプカーが通る道路に隣接している物理的な条件があり未施錠対応は困難である
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全に配慮している。居室で過ごす利用者の確認や居場所の確認を行うようにしている。	外出時の配慮のポイント等職員の研修が必要である
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	職員側で「危険」と判断した物については預かるようにしている。利用者様の身体状況・能力に応じて対応している。	連絡帳を通して情報を共有し、実施している
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急対応のマニュアルはあるが勉強会は不足している	事故報告書・ヒヤリハット等を回覧して事故防止には努めているが研修会を催してスキルアップを図りたい
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当や初期対応の訓練を定期的には実施はできていない	消防署の訓練等、依頼して実施していきたい
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	細かいことから報告書にして挙げている	薬に関することが多いので解決策

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域の協力が得られるように運営推進会議等で協力を得たい
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		緊急性のあるものには家族に電話にて相談し、時間が許すものはケアプランに盛り込んで了承を得ている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		速やかに対応している その日のリーダーの判断で急な受診等対応している
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		用途・用法・副作用についての情報はファイルしてあるが全ての職員が把握しているとは思えない。把握できるような工夫が必要である
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		取り組んではいるが浣腸に頼ってしまうところがある。自然排便を望む姿勢は続けていきたい
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		特に、歯科診療で口腔ケアの指示がある人はケアプランに盛り込んで職員が介助する等の対応を行っている
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		糖尿病の人の食事管理等、まめに対応している
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		感染症に対するわかりやすいマニュアルの整備が必要である。今あるのは雑然としており早急に改善する必要がある
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		食器を洗うスポンジ・食器・歯ブラシ等は乾燥機にて高温消毒している。食材も賞味期限を見ながら順番に使用している

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関もスロープがついており建物自体の工夫はあるが近隣との交流が薄い	近隣の人等が何気なく立ち寄るという感じはない。近隣との抵抗をなくすることが大切と考えておりもっと自由に立ち寄れるように工夫する必要がある
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	日の当たり具合等考慮しながら対応している	食堂では季節感を取り入れた工夫をしている七夕・クリスマス等
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	特に工夫はないが生活の場と捉え自由に生活していただいている	テーブルで話しをする方、ソファで語る方 居室で休まれる方、自由に過ごしていただけるように支援しています
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	長年使われた馴染みの品等は積極的に持ち込んでもらっている。本人の使い慣れた家具・布団を用いて生活して頂いている。	入居時には家族に対してもそのように対応している
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気を行っている。各個室にはエアコンがあり事務室で集中管理と、居室を訪室してのリモコンによる個室管理を行っている。	寒くなり日中は解放する窓も夕方には閉めるように徹底している。夜間の居室温度も22～23の範囲で管理しており、入居者様の好みに合わせている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	あえて言えば浴室が普通タイプのユニットバスになっており改善の余地がある	廊下の手摺り等、それぞれの力に応じた対応が出来るように建物内部も工夫されている。浴槽の回転ボード等取り入れて安全な入浴を計りたい
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自立して暮らせるように支援している	各利用者様の自立の力を妨げないように、出来る人には手を貸さない生活を実施している
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	活動出来るように支援している	畑での農作業・草取り等実施している

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない